

51 佐賀県景気動向指数

平成28年5月の動向

- ◆ 先行指数 **70.0%** …… 4か月振りに50%を上回った。
- ◆ 一致指数 **42.9%** …… 4か月連続で50%を下回った。
- ◆ 遅行指数 **66.7%** …… 2か月連続で50%を上回った。

表1 変化方向表

採用系列	H27.5月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H28.1月	2月	3月	4月	5月	6月
(先行系列)													
1 所定外労働時間数	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	+
2 新規求人数	-	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	+	+
3 鉱工業生産指数(生産財)	-	-	+	+	+	-	+	-	0	-	-	-	+
4 乗用車新車登録台数	+	+	+	-	-	-	-	-	+	-	-	+	+
5 鉱工業在庫率(生産財・逆)	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	-
6 新設住宅着工戸数	+	+	+	+	+	+	-	-	+	-	+	-	+
7 企業倒産件数(逆)	+	-	+	-	-	-	-	+	+	+	0	-	-
8 不渡手形金額(逆)	+	+	-	-	-	-	-	+	+	+	0	+	+
9 銀行貸出残高()	+	+	+	-	-	-	-	-	0	+	-	-	-
10 手形交換金額()	-	-	-	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+
拡張本数	6.0	7.0	8.0	6.0	3.0	3.0	5.0	5.0	7.0	5.0	4.0	4.0	7.0
採用指標数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
先行指数	60.0	70.0	80.0	60.0	30.0	30.0	50.0	50.0	70.0	50.0	40.0	40.0	70.0
(一致系列)													
1 有効求人倍率	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
2 就職率	-	-	0	+	-	-	0	+	+	+	+	+	-
3 鉱工業生産指数(総合)	-	-	+	+	+	0	+	-	+	-	-	-	-
4 鉱工業出荷指数(総合)	-	-	+	+	+	+	-	-	+	-	+	-	+
5 大型店売上高()	+	+	-	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-
6 着工建築物床面積(産業用)	-	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	+	+
7 輸入総額(唐津+伊万里)	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-
拡張本数	2.0	4.0	4.5	6.0	4.0	4.5	3.5	3.0	6.0	3.0	3.0	3.0	3.0
採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
一致指数	28.6	57.1	64.3	85.7	57.1	64.3	50.0	42.9	85.7	42.9	42.9	42.9	42.9
(遅行系列)													
1 常用雇用指数	+	+	-	+	-	-	-	-	+	-	+	-	+
2 雇用保険受給実人員(逆)	-	-	-	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+
3 陶磁器生産重量	+	+	+	+	-	+	-	-	-	-	-	+	-
4 消費者物価指数()	-	-	-	-	-	+	0	+	-	+	-	-	-
5 鉱工業在庫指数(総合)	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	+
6 銀行預貸率	+	+	+	+	-	-	0	+	+	-	+	+	+
拡張本数	4.0	3.0	2.0	4.0	2.0	4.0	2.0	3.0	2.0	1.0	2.0	4.0	4.0
採用指標数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
遅行指数	66.7	50.0	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	66.7	66.7

(逆)は逆サイクルを示す。

(☆)は対前年同月比で、その他はセンサス法により季節調整を行っている。

景気動向指数(DI: Diffusion Index)の見方

- ★ DIは、景気の動きを各種の指標によって総合的にとらえようとするもので、各系列で採用指標のうち3か月前と比較して増加している系列(+)が何%を占めているかを表したものです。各系列において、指数の計算方法は次式によります。

$$\text{指数} = (\text{「+」の指標数} + 0.5 \times \text{保ち合い「0」の指標数}) \div \text{当該採用指標数} \times 100$$
- ★ DIには3つの指標があり、それぞれ下記のような特徴があります。
 - 「先行指数」 …… 景気に対し先行して動き、景気の先行きを予測する。
 - 「一致指数」 …… 景気に対しほぼ一致して動き、景気の現状を示す。
 - 「遅行指数」 …… 景気に対し遅れて動き、景気の動きを確認する。
- ★ 一致指数が基調的に50%を上回って推移している時期は景気拡張期、50%を下回って推移している時期は景気後退期と判断します。なお、値そのものの大きさは景気変動の大きさないし振幅を示すものではありません。

